

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901613		
法人名	有限会社ライフステージ		
事業所名	グループホームひだまり Aユニット		
所在地	北海道旭川市神楽4条1丁目3番5号		
自己評価作成日	令和 5 年 8 月 18 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性を大切に、なおかつ能力に合わせた暮らしが送れるよう努めています。日常生活では、日々の家事(洗濯物干し・たたみ、茶碗洗い・拭き・掃除等)をスタッフと一緒に、役割を感じて頂けるよう支援しています。夏季には、出来る限り外でラジオ体操を行い、その後施設内のパークゴルフ場でパークゴルフをする人・散歩に行く人と様々です。冬季等は、室内でラジオ体操・リズム体操・ストレッチ体操・脳トレをしています。午後からは、いろいろなレクリエーションを取り入れ、毎回入居者様の大きな笑い声が響きます。ここ数年コロナ禍の為、外出行事が出来ませんでしたが、少しづつお花見に出かけたり、敷地内で花火大会を行ったりしています。また、各ユニットごとに誕生会や季節行事を行い、四季を感じて頂けるようスタッフ一同知恵を絞っています。数年の間コロナウィルスの流行で、ご家族様には面会等の制限を設けさせて頂きご不便をおかけしていました。その間状況を見ながらドアや窓のガラス越し、外のテラス等で対応させて頂いていました。他にもパソコンでのオンライン面会も導入致しました。施設のホームページでは、施設内での日々の様子を写真に撮り「ひだまり通信」として毎月更新、誕生者がいる月は誕生会の様子をビデオに撮り動画が見られるようにし、ご家族にできるだけ施設内の様子がわかる様努めています。未だコロナウィルス感染症は流行していますので細心の注意を払い感染防止に努めております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901613-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和5年9月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR旭川駅から約1km、バス停より徒歩5分の交通の便に恵まれた閑静な住宅地にある。共用型デイサービスを併設し、隣接してグループホームひだまりの家があり、利用者同士の趣味や行事を通じて馴染みの関係ができています。職員は合同で全体会議を行い、職員同士の連携を密にして事例を共有しながら質の向上に取り組んでいる。夏季には隣接の事業所と合同で屋外でのラジオ体操を職員や地域の方と共に行っている。毎年開催している事業所合同の「ひだまり祭り」では家族や地域住民も一緒に楽しく交流している。地元中学生の体験学習の受け入れもやっている。新設した「ひだまりサロン」ではかき氷や菓子作り等をして地域との交流を図り認知症に対する理解や啓発に努めている。職員は利用者一人ひとりの幸せを願って残存能力を引き出すようなアプローチを行っており、単にケア中心ではなく、生活の充実を心掛けている。利用者は職員に見守られながら思い思いに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	メイクハピネスの理念を実践するため、入居者一人一人の出来る事・楽しいと思える事を見つけ出し、日々取り組んでいます。	事業所独自の理念「メイクハピネス」(介護より快護。入居者様の幸せが、家族の幸せであり、私たちの幸せです)を掲げて、日々利用者が楽しく笑顔で幸せに暮らせるように職員全員で共有し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	以前は外でのラジオ体操の際、近所の方も参加されていました。家族や地域の方と交流の機会を持つひだまり祭りや誕生会にご家族の招待等もしていましたが、ここ数年コロナの影響でできませんでした。徐々にまた交流したいです。	天気の良い日には外でラジオ体操をし、その後散歩に出かけたり、敷地内でパークゴルフをしたり、歌を歌ったり、テラスでお茶を飲んだり地域の人とも加わって過ごしている。中学生の体験学習やひだまり祭りはコロナ禍で自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は、認知症の方の接し方を学んで地域に理解を広めて頂くため、それに人材を育成する為にも、中学生の職場体験を受け入れていましたが、ここ数年はコロナの影響で中止になっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナが流行してからは、書面会議を実施。施設内の取り組みや様子を写真付きで書面に各担当者に郵送し、それに対しての意見を返送してもらい、サービスに反映させています。	年6回開催し、市職員、民生委員、自治会長、看護師、利用者、利用者家族等が参加している。コロナ禍の現在は写真付き書面を郵送して返事をもらい会議にかえている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で制限の多い中、運営推進会議で書面会議に参加頂いたり、運営に関しても、疑問質問があった場合は各課に問い合わせ相談しています。	市担当者とは日常業務を通じて情報交換をし助言や指導を得ている。また、市や地域包括支援センター主催の研修会に参加し、協力関係を築くよう努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を定期的に開催。会議等で毎回テーマに基づき話し合いを行い職員間でも意識して確認合っており、普段から玄関の施錠もしていません。	身体拘束廃止委員会を定期的に開催し、外部研修や内部研修、全体会議、ユニット会議で日常的に職員間で話し合いをしている。身体拘束の具体的な行為等についても勉強会を実施している。玄関の施錠は防犯上夜間のみしている	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、定期的に勉強会等で虐待の定義について話し合っています。日常の中で利用者様への言葉遣いを含めスタッフ同士で話し合い意識して介護にあたっています。		

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用している利用者様はいないが、資料等で情報を得、学ぶ機会を持つようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際、又は解約・改定を行う時は利用者様やご家族様に納得のいくまで十分時間をかけて説明をし、書面にて同意も頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入り口にご意見箱を設置。又、ご家族が来所した際や電話等で、日常の様子を伝えると共に、疑問や意見を言いやすい関係を築くよう心掛け、プランにも反映させています。	玄関に利用者や家族が意見や苦情を言いやすいように意見箱を設置している。毎月発行している「ひだまり通信」で利用者や家族に情報提供し、意見や疑問を言いやすい関係性の構築に努めている。また苦情処理の外部機関として市役所と国民健康連合会を明示している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や申し送り等で意見交換や話し合いの場を設けています。	全体会議やユニットごとの会議で意見交換を行い、ユニットごとの会議に置けるは職員の意見や提案を聞く機会を設け運営に反映させている。職員の勤務年数は長く、資格取得希望者には積極的に機会を与えて支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続年数・有資格者などの評価基準を設けています。又、個々の努力・勤務姿勢に応じて評価しています。職場環境や条件の整備にも、改善できる点は職員の意見・要望を聞いたアンケートを取ったりしながら一緒に取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ数年コロナ禍で事業所以外での研修にはなかなか参加出来ないため、内部での研修を毎回違ったテーマで提供し、職員の力量・質の向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はボウリング大会等、交流の機会に参加していたが、ここ数年はコロナ禍で交流できていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の家事やレクリエーション等を、一緒に楽しみながら、お互いの関係性を築いている。その中で、利用者様の好みや願いを理解し尊重し、一人一人の思いに共感するよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から情報を収集、希望・要望を聞くようにしています。又、施設の様子や対応状況を良く説明し、より良く知って頂く事で信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から話し合いを重ね、ご本人・ご家族が今必要としている支援を双方納得のいく形で提供できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活で家事やレクリエーション等を一緒に楽しみながら行い、お互いの関係性を築いている。その中で、利用者様の好みや願いを尊重し、一人一人の思いに共感しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活で家事やレクリエーション等を一緒に楽しみながら行い、お互いの関係性を築いている。その中で、利用者様の好みや願いを尊重し、一人一人の思いに共感しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一人一人のこれまでの生活歴を収集し、昔からの友人や親せき等の関係性を継続できるようハガキや電話の支援をしています。又、ここ数年コロナ禍で、ガラス越しや屋外のテラス等条件はあるものの柔軟に面会の対応をしています。コロナ禍を機にオンライン面会も始めました。	利用者がこれまで培ってきた生活を把握し馴染みの人や場所の関係性が途切れないように支援している。知人との関係の継続のため電話やハガキを支援している。コロナ禍の現在、面会は個々に応じて柔軟に対応しているがこれを機にオンライン面会も始めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立している様子が見受けられた場合、スタッフが声掛けし、利用者様同士の間に入り、共有できるような話題を提供したり、無理強いはせずゲームやレクリエーションへの参加を促し良い関係を保てるよう努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、後日ご家族からその後の様子や経緯を連絡いただく事もあり、必要に応じて相談・助言・支援を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の様子や状態を把握し、本人の希望をできる限り実現できるよう個別ケアに力を入れています。	日々の会話や表情、家族の情報から思いや希望の把握に努めている。困難な場合は利用者の生活経験やしぐさ等から利用者の意向をくみ取り、できるだけ希望や要望が叶うように利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族等から、今までの生活歴や趣味・嗜好を聞いたり、利用していたサービス事業所から情報収集しています。又、ご本人との会話の内容をスタッフ間で共有し、全員が把握できるようにも努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人一人の心身状況をスタッフ全員が把握できるよう記録しています。それにより、毎日の変化にいち早く気づき、その日その日の過ごし方の目安に役立っています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族の要望を聞き、必要な関係機関と相談連絡を行ったり、日々の生活や会話の中で気が付いた事(身体的・精神的等)を、申し送りや会議で話し合い情報を共有しています。必要に応じて医療機関・専門機関に相談し、より良い生活が送れるようケアプランに反映させています。	本人や家族、必要な関係者と話し合い本人や家族の意向を反映させた利用者主体の介護計画を作成している。短期3ヵ月、長期6ヵ月で作成しその際家族の確認印を得ている。変化時にはその都度見直しをしている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を把握した上で、気が付いた事・変化を記録し、申し送りや会議で情報を共有しています。そこからケアの工夫や実践を行い話し合いを重ねてケアプランの見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院への受診・往診対応や面会・冠婚葬祭等の外出支援、買い物代行等、柔軟な支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ここ数年コロナ禍だった為、なかなか個々にあった地域資源の利用が出来ていませんが、訪問理美容や訪問診療を受けられるよう支援しています。夏季はキッチンカーを呼ぶと、皆さんとても喜ばれていました。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の同意のもと、施設に来てくれている往診医への加入を進めています。かかりつけ医の継続も行っています。又、必要時は他の医療機関への対応も随時行っています。	かかりつけ医の継続受診を支援しているが止むをえない場合の協力医への変更は利用者・家族の同意を得ている。通院介助は職員が同行している。月一回の往診があり健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の勤務日には、健康管理や医療機関への受診・往診・連絡調整の対応が速やかに行える様利用者様の様子をできるだけ詳しく報告するようにしています。普段から、入居者様の皮膚疾患等の処置を一緒に行ったり、急変時にはできる限り早急に対応できるよう変化があればその都度看護師に報告しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃の受診や往診内容を入院前から医療機関・ご家族と情報を共有する事が出来ています。ここ数年コロナの為、直接面会に行っても本人の様子を確認する事が出来ないため、病院とご家族に連絡を取って退院日や今後の事について話し合いを行っています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の段階で重度化・終末期について、ご本人・ご家族と話し合っています。重度化してきた場合、その都度ご家族の要望を聞き、当施設が出来る事・出来ない事を説明し、医師の意見を聞きながら3者で方向性を話し合い同意のもと個々の状態に合わせた対応を取っています。	入居時に重度化や終末期に向けた話し合いを本人や家族とし同意を得て確認印をもらっている。重度化した場合、家族や医師が話し合いを重ね、事業所のできる事を十分に説明し方針を共有している。看取りに関しては支援の力量や人為的問題等から現実的に難しい事を理解してもらっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあり、それに基づき対応。急変・緊急時には、当施設の看護師や入居者それぞれの担当医に連絡し指示を貰うようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回入居者様と一緒に避難訓練を行っています。	火災や地震、水害等災害時に備えて、年に2回（日中と夜間想定）消防署の協力を得て避難訓練を行っている。具体的避難誘導策として垂直訓練をし、職員は押さない、走らない、喋らない、戻らないを合言葉としている。	災害の発生に備えて、食糧や飲料水、寒さ対策の物など備蓄品の十分な確保と、備蓄品リストの作成を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が出来る事を継続して出来るよう、やる気を尊重した声掛けや対応をしています。又、プライバシーに配慮し、一人一人に合わせた声掛け対応をしています。	個々の尊厳を守るため言葉や対応に気を付け、人格の尊重とプライバシーの確保に努めている。また、日常の業務や全体会議、ユニット会議で人権意識の話し合いをし職員間で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、できる限りご本人が選択決定出来るよう声掛け確認しています。その選択決定が困難な方でも職員が手助けしながら自己決定まで持っていけるよう支援しています。		

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の日課に沿って過ごして頂いていますが、一人一人がしたい事・やりたい事に目を向け、本人が暮らしていた頃に注目し、希望に沿って過ごして頂いています。軽作業やレクリエーションも体調や気分に応じ、本人に合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを日常生活から情報収集して、衣服はご自分で選ばれたり、暑さ寒さを考えてスタッフと一緒に選んだりしています。又、訪問理美容で毛染めやパーマをかけたり、定期的に爪切りや髭剃りの支援も行っています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前には入居者様に順番に食事のメニューを読み上げて頂いています。食器洗い・食器拭き・台拭き等それぞれ能力に合わせて分担して出来る人が行っています。又、誕生会には毎回ケーキの飾り付けを一緒にしています。	食事は個々の体調に合わせて提供し、月に一度の「調理の日」には利用者と職員と一緒に献立を考えている。利用者個々の能力に応じて茶碗やお盆拭き、おしぼり準備等をしている。誕生会やクリスマス会などの行事食は、利用者と職員が楽しみながら作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量を毎回記録し、個々の摂取量を把握するよう努めています。気温や体調、個々の状態に合わせて水分の増減・食事の量や形状を工夫して提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず声掛けし、口腔ケアができています。本人の状態に合わせて介助方法や声の掛け方も工夫し口腔ケアを行っています。又、歯科往診時に医師に相談したり、指示を受けています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の状態を記録し、時間の感覚を考慮して、その方に合った声掛け・誘導する事で習慣化し、失禁を軽減出来るよう支援しています。	自尊心に配慮しさりげない誘導を心掛けている。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し職員が一丸となって排泄の自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日施設で手作りのヨーグルトを提供しています。こまめに水分を提供し、夏季には天気が悪くなければ毎日外でラジオ体操を行っています。室内ではストレッチ体操やリズム体操等、毎日体を動かしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の体調や予定に合わせて柔軟に対応しながら週2回の入浴を、職員との会話も楽しみながら入浴されています。男性職員が苦手な入居者様には女性職員が対応する配慮も行っています。	週2回の入浴を目安にしているが、一律の支援にならないように本人の希望や健康状態を配慮して柔軟に対応している。午前中の入浴希望も受け入れ支援している。	

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個人の生活習慣や状態に応じてソファや居室へご案内し、休息して頂いています。夜間も、室温や湿度・物音等に配慮し、気持ちよく眠れるように支援しています。又、夜間眠れない時にはご本人の訴えに応じて話を聞いたり、飲み物を提供したりしています。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の際は、誤薬が無いよう職員同士で名前・日付・時間・薬の数を声に出し目でもしっかり確認するダブルチェックを行っています。又、飲み込むまで確認しています。薬が飲みにくい場合はご本人に合わせて形状・飲み方を工夫・対応しています。薬事情報はスタッフがいつでも確認できる所に保管し、薬の事でわからない事があれば看護師・かかりつけ薬局に相談し、変更時もスタッフ間で情報を共有しています。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナの影響がまだまだ続く中、敷地内のパークゴルフ場でプレーしたり、思い思いに好きな事(パズルや脳トレ等)をされています。又、皆で毎日いろいろなレクリエーションを行っています。他にも、毎日の掃除や食器洗い・茶わん拭き・洗濯物干し・たたみ等それぞれできる事を役割を持ち、生活にメリハリをつけています。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ここ数年コロナ禍で自由な外出対応が困難だった為、個別に必要な外出がある場合には、施設側で送迎対応し、ご家族・ご本人の要望にできる限り答えています。	夏季は外でラジオ体操を行い、その後散歩をしたり、歌を歌ったり、敷地内でパークゴルフを楽しんだりテラスでお茶を飲む等外気浴ができるよう支援している。コロナ禍で自由に外出ができない中でも必要な外出には施設で送迎し柔軟に対応している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力に合わせた対応をしていました。ご自分で所持している方や、事務所でお預かりしているお小遣いがある方は、外出の際使える支援をしたりしていました。しかし、ここ数年コロナ禍だった為その機械が無い状態が続いています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を掛けたり取り次ぐ支援をしています。手紙や荷物が届くと手渡し一緒に読んだり・開けたりし、能力に応じては手紙やハガキを読み上げる支援もしています。又、返事が書けるよう手紙やはがきを用意しポストに投函しています。			

グループホームひだまり Aユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のスペースでは季節の飾り付けをスタッフと一緒に飾り付けしたりし、心地よく過ごせるよう配慮しています。	居間や食堂、浴室などの共用生活空間は温度や湿度が適切に調節されている。壁には季節感のある飾りつけがされ、居間のテーブルには花を飾り居心地よく生活できるように工夫している。食事の時には懐かしい音楽を静かに流し、生活の音への配慮もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で過ごせるよう、ソファを数か所に配置、夏季にはテラスに椅子やテーブルを置き、1日のうちでも時間帯によって皆で活動的に過ごしたり、一人一人パズルや点つなぎ等やりたい事を思い思いに過ごせる場所を作っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境の変化による不安が少しでも軽減できるよう、入居前に説明し、寝具や家具・趣味・嗜好品等今まで使用していた馴染みのある物を持ち込まれています。	安心してその人らしく過ごせるように寝具や家具・趣味・嗜好品等馴染みのある物を持ち込み居心地よく温かい雰囲気作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	遊具やカードゲーム等は常に届く場所に整理され、皆で自由に遊べる空間があります。又、施設敷地内の広場やパークゴルフ場へ出る時は、上着・帽子も分かりやすい所に置かれ、手に取りやすいようにしています。		